

## LuckyFM 茨城放送主催 11月6日 いばチャリin 下妻常総を開催

鬼怒川サイクリングロードの完成を記念して、鬼怒川サイクリングロードや下妻市・常総市の名所などを巡るサイクリングイベントが開催され、市内外から約60人のサイクリストが集まり、秋晴れの下、サイクリングを楽しみました。

コースは、ピアスパーク下妻を発着場として、ほっとランドきぬ、決壊の碑(常総市三坂町)、豊田城、やすらぎの里しもつま、大宝八幡宮を巡る約45kmのコースで、各所に設けられた休憩所では、地域の名産品が振舞われ、参加者が舌鼓を打ちました。

石岡市から参加した小島さん夫妻は「走りやすいコースでした。下妻や常総、それぞれ見所があって楽しめました」と話していました。



写真上下 鬼怒川沿いを南下する参加者(二本紀地区付近)

有料広告欄

## 地域おこし 協力隊だより

第17回

あらかわあんり  
荒川安莉



2022年、私は、地域のみなさんのおかげで様々なご縁をいただき、有意義な活動ができたと感じています。私の地域おこし協力隊としての任期は、2023年12月で終了となるため、あと1年の任期となりました。残り一年も精一杯励みたいと思います。

さて、わたしの活動を報告します。筑波サーキット主催の2輪レースで「下妻市地域おこし協力隊賞」として旬の食材を提供させていただきました。また、レースに出場する選手に「下妻ってこんなまち」(下妻紹介の小冊子)を配布し、下妻市の認知度を高め、選手に下妻市に足を運んでもらうきっかけづくりをしました。少しずつではありますが、「下妻」を知ってもらうことで市内に立ち寄ってくださる方も増えています。

また、私事ですが、先日「野菜ソムリエ」の資格を取得しました。今後は、自分自身も野菜ソムリエとして野菜や食について勉強しながら、下妻市内のみなさんに野菜の情報をお届けできればと思っています。SNSもぜひご覧ください。



筑波サーキットで下妻市のPRを行いました

Instagram:  
arakawa.shimotsumalife



Twitter:  
https://twitter.com/shimotsuma\_life

問 都市整備課 ☎45-8128 FAX 43-2945

## 下妻の秋を彩る 11月1日~25日 第37回下妻市菊まつり

下妻市菊花会主催の「下妻市菊まつり」が11月1日から25日までの期間、大宝八幡宮境内を会場に開催されました。菊は市の花であり、同会の会員が丹精込めて育てたものです。期間中は、花びらが中心に向かって盛り上がり咲く「厚物」、花びらが管状になり放射状に咲く「管物」、それらを組み合わせた「特作花壇」が訪れた人々の目を楽しませました。

観覧に訪れた筑西市の夫婦は「毎年楽しみにしています。今年もきれいな菊を見ることができて良かったです」と話していました。



「特作花壇」を観覧する来場者

## さん歩の駅サン・SUNさぬま 5周年記念お客様感謝祭を開催 11月23日

さん歩の駅サン・SUNさぬまは、開設から5周年を迎え、お客様感謝祭を開催しました。同施設は、1階が県内外の名産品など販売する下妻マルシェ、2階が8代葵カフェ下妻店の観光交流センターとして、「株式会社坂東太郎」により運営されています。当日は悪天候のため、規模を縮小しての開催となりましたが、これまでの運営で繋がりを持った地域の協力者や事業者と連携したマルシェなどのイベントを行いました。

8代葵カフェ下妻店店長の佐伯亨さんは「引き続き、気軽に立ち寄れ、たくさんの笑顔と喜びであふれる「さん歩の駅」に育ててまいります」と話していました。



賞品が当たるジャンケン大会を楽しむ来場者

## ポピーの種まきと 10月16日 さつまいもの収穫を実施

大形橋上流左岸河川敷の鬼怒フラワーラインで、来年5月の「花とふれあいまつり」に向けてのポピーの種まきと、6月に定植したさつまいもの収穫が行われました。この日参加したのは、約120人。収穫したさつまいもは参加者に配布されました。

花と一万人の会の飯島順一(いひじまのり)会長は、「花と一万人の会協力団体、花万ジュニアスタッフ、ふれあいまつり出演団体の皆様のご協力により、無事作業を終えることができました。来年の『花とふれあいまつり』では、きれいなポピーをお見せできると思います」と話していました。



収穫したさつまいもを前にする参加者

## 全国梨選手権 最高金賞受賞を 11月18日 県知事に報告

下妻市果樹組合連合会の「恵水梨」が日本野菜ソムリエ協会(東京都)主催の第1回全国梨選手権で最高金賞を受賞したことから、同連合会の小田部会長・磯山副会長らが県庁を訪れ、大井川知事を表敬訪問しました。

恵水梨は、酸味が少なく深い甘みを感じられる茨城県オリジナル品種の梨です。同選手権の評価員からは「白いバラを思わせるような豊かな香りとしっかりとした甘味。ジュシーでとてもおいしい」などの高い評価を受けての受賞であり、生産者の梨への妥協のない姿勢と努力が評価される結果となりました。



恵水梨を手渡す小田部会長(左)と大井川知事(右)